

令和3年度 学校評価計画

徳島県立穴吹高等学校

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
1 確かな学力の育成	1-1 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	1① 基礎学力養成のため校内で漢字テストおよび英単語テストを実施し、年間平均85点以上の優秀者の割合を、全学年、漢字テスト、英単語テストともに30%以上を目指す。	1① 実施日に向けて国語科・英語科を中心に事前対策を行い、各学年・クラスでも学習を奨励し、校内表彰に加えて学年表彰を設けることで漢字および英単語の習得を督促する。	年間平均85点以上の優秀者の割合 ※()内は昨年度 漢字テスト 〔1学年〕43.3%(39.3%) 〔2学年〕37.0%(42.1%) 〔3学年〕56.1%(51.8%) 英単語テスト 〔1学年〕23.3%(14.3%) 〔2学年〕11.1%(35.1%) 〔3学年〕40.3%(52.7%)	B	定期考査時の家庭学習時間調査で、1日の平均学習時間が2時間を超えているのは、「勉強しておかなくてはいけない」という生徒の気持ちがあるからこそ可能な数字だろう。先生方のたゆまぬ努力の成果である。 2学年の英単語テストの優秀者の割合が昨年度より低下していることと、1・2年生において平均学習時間が昨年度より減少していることが気になる。生徒個々の進路実現のために、特に指導が必要であると考え。 1④について、生徒に目標（進路目標）と準備（学習）の意識付けをしっかりと持たせるよう、工夫していただきたい。 今後のより一層の取組を期待している。	1・2年生で英語学習を苦手とする生徒が多い。より一層反復学習に力を入れる必要がある。 また、進学・就職を問わず、今後自ら学ぶ姿勢が必要であることを機会あるごとに指導し、基礎学力の定着を促す。
		1② 1年生で国語・数学・英語の基礎教科に関して学び直しを行い、認定テストの最上級の合格率60%以上を目指す。	1② 授業および課外学習での学習時間を確保するとともに、定期考査の出題範囲に盛り込むことにより学習意欲の高揚と持続を図る。	1年生認定テスト最上級合格率 国語 96.4% (94.6%) 数学 89.3% (87.5%) 英語 57.1% (53.6%)			B
		1③ 学力の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	1③ 考査期間を含む1週間の家庭学習時間調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容について担任が助言する。	一人あたりの1日平均学習時間 〔1学年〕2.5時間(3.1時間) 〔2学年〕2.7時間(2.9時間) 〔3学年〕3.0時間(2.7時間)	A		家庭学習時間調査を定期考査ごとに実施し、学習状況を確認するとともに家庭学習の定着につなげる。
		1④ 生徒対象の進路ガイダンス、進路模擬授業及び保護者対象の進路説明会等の行事を年間5回以上実施する。	1④ 各行事の内容を精選し、生徒の興味・関心・適性等に沿ったものにする。また、保護者に積極的な参加、参観を勧めるために案内文を工夫するとともに、参加機会を増やす。	生徒対象進路ガイダンス4回、進路模擬授業及び保護者対象進路説明会等2回(3月18日実施できれば3回)実施	A		今後より主体的な進路決定に臨めるよう、体験的な学びの場を設定したり、情報量を増やしたりすることで、能動的なキャリア学習を重ねさせたい。
1-2 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。	2① 他の教員の授業を1・2学期、各2名以上の授業を見学する。授業見学率100%を目指す。	2① 1・2学期に各1か月すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また、授業者も参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。	教員2名以上の授業見学率 ※()内は昨年度 〔1学期〕100% 〔2学期〕100% (97.8%) 年間全体 100% (97.8%)	A	授業実践力の向上を図るために授業見学に留まらず自分の授業改善に生かすよう促す。また、授業者自身も参観シートを自分の授業改善につなげる。		
	2② 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の問いに対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒の割合が全学年80%以上を目指す。	2② 2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を教員で共有することにより、生徒が主体的・積極的に取り組める授業改善に取り組む。	「大変当てはまる」「当てはまる」と回答した生徒の割合 〔1学年〕78.6% (94.6%) 〔2学年〕83.6% (80.4%) 〔3学年〕83.6% (90.3%) 生徒全体 82.5% (88.4%)		B	教科会を開き意見交換をしたり、生徒へのアンケートを参考に自分の授業を見直したりし、生徒が意欲的に取り組めるよう教材研究に努める。	
	2③ 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」の問いに対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員の割合が80%以上を目指す。	2③ 2学期末に教員へ授業についてのアンケートをとり、結果をもとに、各自、授業の振り返りを行い、今後の授業改善に努める。	「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合 「そう思う」23.8% (40.0%) 「だいたいそう思う」71.4% (46.7%) 計 95.2% (86.7%)	A	自己評価だけでなく参観シート等で他者評価も行い、肯定的意見が高い割合となるよう授業改善に努める。		

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
2 基本的 生活 習慣 の 確 立	2-1 学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	1① 生徒のセルフチェックで「学校や社会のきまり・ルールを守ることができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年80%以上を目指す。	1① 計画的に校舎内外の巡視や服装・頭髪指導を行い、気になる生徒には声かけや指導を行う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 (1年生) 87.1% (2年生) 86.5% (3年生) 94.3%	A	社会秩序を保つためこの項目は必要だと思う。併せて、社会で円滑な人間関係を構築するためにも礼儀や作法等についてもしっかりと取り組んで欲しい。 基本的な生活習慣は家庭での生活の中で確立されてきたものであると考えるが、学校教育の中で社会人としての心得を教えていくことも大切になっている。現在取り組んでおられる内容に期待したい。 1②の評価指標と認知力向上トレーニングのつながりが疑問であった。学校側の説明により、認知力向上トレーニングが生徒の授業への取組や注意力・集中力につながっていることがわかった。 挨拶ができないのは「恥ずかしい」と思うからであろうと思われるので、挨拶運動を当番制にして関わる生徒を増やしてはどうだろうか。	計画的な巡視や頭髪・服装指導により学校や社会のルールを理解させる。また対話を通して生徒理解を進める。今後も生徒が自主的に正しい行動を選択できるよう学校全体で連携して指導にあたる。
		1② 生徒のセルフチェックで「うまくできないことを途中で諦めず、努力することができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年65%以上を目指す。	1② 朝のSHR前の10分間を朝の学習の時間とし、認知力向上トレーニング(コグトレ)を段階的に実施する。具体的には1年生では視覚的短期記憶・聴覚的短期記憶を高めるトレーニング、2年生では注意力や集中力、想像する力を高めるトレーニングを行い、3年生では進学・就職試験に向けた実践的な学習を行う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 (1年生) 64.5% (2年生) 55.8% (3年生) 83.3%	B	1②の評価指標と認知力向上トレーニングのつながりが疑問であった。学校側の説明により、認知力向上トレーニングが生徒の授業への取組や注意力・集中力につながっていることがわかった。 挨拶ができないのは「恥ずかしい」と思うからであろうと思われるので、挨拶運動を当番制にして関わる生徒を増やしてはどうだろうか。	認知力向上トレーニング(コグトレ)に段階的・継続的に取り組むことで、学習や生活の土台となる注意力・集中力・想像する力を高める。
		1③ 生徒のセルフチェックで「相手や場に応じた言葉遣いができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年80%以上を目指す。	1③ 校内人権の日において、動画やグループワークを取り入れた、ソーシャルスキルトレーニングを実施する。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 (1年生) 71.0% (2年生) 84.5% (3年生) 90.7%	B	挨拶ができないのは「恥ずかしい」と思うからであろうと思われるので、挨拶運動を当番制にして関わる生徒を増やしてはどうだろうか。	様々な経験により相手や場に応じた言葉遣いが習得される。そこで、年度当初からソーシャルスキルを学習する機会を設ける他、職員室入室時や各種届出書類提出時において、身だしなみや言葉遣いを個別に指導する。
	2-2 学校生活を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	2① 学校生活アンケートで「挨拶(会釈を含む)をしている」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2① 気持ちよく一日のスタートがきれいよう、生徒会役員がリーダーとなり、積極的に挨拶を行う挨拶運動を毎週月曜と金曜の朝に実施することで、全校生徒が挨拶や会釈を交わすことのできる習慣形成を図る。	肯定的に回答した生徒の割合 88.9%	A	挨拶ができないのは「恥ずかしい」と思うからであろうと思われるので、挨拶運動を当番制にして関わる生徒を増やしてはどうだろうか。	朝の挨拶運動については、多くの生徒が挨拶をしてくれることで元気をもらっていると捉えている。生徒会が中心になって、お互いに積極的に関わる事ができるよう引き続き指導する。
		2② 学校生活アンケートで「清掃活動に丁寧に取り組んでいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2② 学期ごとに清掃活動を頑張っているクラスまたは清掃分担場所を表彰する「びかびかコンテスト」を実施することで、学習環境を整える意識の高揚を図る。	肯定的に回答した生徒の割合 85.5%	A	挨拶ができないのは「恥ずかしい」と思うからであろうと思われるので、挨拶運動を当番制にして関わる生徒を増やしてはどうだろうか。	学期ごとに2カ所清掃分担箇所を表彰している。来年度は各清掃分担監督者の意見も考慮し、生徒の頑張りがさらなるモチベーションにつながるよう工夫する。
		2③ 保護者アンケートで「お子様は家庭でゴミの分別に気をつけていますか」の問いに対し、保護者の割合が75%以上を目指す。	2③ 毎月アースデーを設け、美化委員がゴミの分別を呼びかけ、分別したペットボトルキャップの回収を行う。ペットボトルキャップは家庭からの持ち込みも可としており、「クラス対抗エコキャップバトル」としてペットボトルキャップ回収量の最も多いクラスを表彰することにより、校内のみならず、家庭でもゴミ分別の意識高揚を図る。	肯定的に回答した保護者の割合 88.9%	A	挨拶ができないのは「恥ずかしい」と思うからであろうと思われるので、挨拶運動を当番制にして関わる生徒を増やしてはどうだろうか。	昨年度に比べペットボトルキャップ回収量は減少した。しかし校内ではゴミの分別が正しくできており、水筒を持参する生徒の姿も見かけられる。このことから、エコ・環境に対する意識は高まっていると考えられるため、今後も取組を継続する。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
他者と協調・協働できる力の育成	3-1 自他の生命や人権を尊重する態度を養う。	1① 生徒のセルフチェックで「相手の気持ちを気づかった関わり方ができる」という問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1① ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を取り扱う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 〔1年生〕 71.0% 〔2年生〕 78.8% 〔3年生〕 94.3%	B	近年、SNS等の書き込みによる事件が社会問題化している。文字は自他共に破滅につながる恐れがあることもしっかり指導して欲しい。 現在はコロナの影響で他者を受け容れない姿勢が強くなっているようだ。だからこそ、学校での他者と協調・協働できる力を育成するという指導も大切になってくる。 生徒達にとって相談できる相手は家族や友人が多く、教員が相談できる相手となっていないことに問題がある。生徒との信頼関係の構築に努力して欲しい。普段からの接し方や関係の構築で相談しやすさは変わってくると思う。1年生でより割合が低いので、1年生の1学期に学年全体で取り組める行事を設定するなどして交流を深めてはどうか。	学年が上がるにつれて肯定的な回答の生徒の割合が増加している。生徒の実態に合わせた人権問題学習に体験型学習を取り入れて実施し、実際の場を想定したソーシャルスキルトレーニングを行う機会を増やしていく。
		1② 学校生活アンケートで「困ったときに相談したり助けを求めたりできる先生や友人がいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1② アンケート調査や校内巡視を行い、いじめの早期発見につなげるとともに、いじめ防止に関するホームルーム活動や講演会を実施したり、教職員及びスクールカウンセラーによる相談体制を強化したりすることにより、学校が安心・安全の場となるように努める。	「困ったときに相談したり助けを求めたりできる先生や友人がいる」と回答した生徒の割合 〔1年生〕 54.8% 〔2年生〕 62.8% 〔3年生〕 74.1%			
		1③ 避難訓練を年間3回、防災クラブの活動を年間7回行う。	1③ 生徒の防災意識を高め、発災時に適切な行動を取ることができるよう、避難訓練や防災クラブ活動を推進する。	避難訓練3回 防災クラブ7回	A	コロナ禍で防災クラブが地域と連携して行う行事は1度しか実施できなかったもので、来年度は積極的に地域とも連携したい。	
	3-2 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育む。	2① 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習にクラスが「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答する割合が85%以上を、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。	2① 人権ホームルームを年間5回行い、人権問題意識調査を年2回実施し、生徒の意識の変化を分析する。	「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答した生徒の割合 89.1% (90.2%) 人権問題解消に向けての意欲を持つと回答した生徒の割合 68.1% (74.2%) ※()内は昨年度	B	全体として人権意識が低下しているように感じられる。人権問題学習の内容も見直しつつ取り組んでいただきたい。 南海トラフを震源とする地震への警戒が必要になっている。防災意識をより一層高めてもらいたい。防災士の試験受験を通して知識を蓄えていくことも大切であると思う。防災士の資格を取った生徒が、今後、地域でも防災の知識を生かして活動していただきたい。	人権ホームルーム活動において各担当が生徒の活動主体のホームルームを実践していることが目標達成に繋がっているため、今後も継続していく。人権問題解消に向けての意欲を持つためにも、他人事ではなく自分も含めた身近な問題として考えられるように、具体的に生徒の実態に合わせた課題を設定する。
		2② 12月の調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答する割合が85%以上を目指す。	2② ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を実施することで、生徒の学習意欲を喚起する。	「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答した生徒の割合 93.5% (96.3%) ※()内は昨年度		A	ホームルーム活動や人権の日をはじめとする人権学習に対してまじめに取り組むことができている。今後は生徒達自身がより主体的に考えて学習できるよう、人権課題や活動内容を精選していく。
	3-3 礼儀正しい態度を育成し、コミュニケーション能力を高める。	3① 部活動生集会を年3回開催する。部活動顧問と担任や教科担当教員が部活動生について話をする機会を作る。	3① 部での活動全てが学校の活性化につながることを自覚させるために、部活動生集会を開催する。また部活動が生徒にとってよりよい成長の場となるよう部活動顧問、担任、教科担当教員が連携しつつ指導にあたる。	部活動生集会を3回開催した。部活動顧問と担任や教科担当教員が連携をとりつつ指導にあたった。	A	部活動生が、部活動以外の学校生活でも中心的な役割を果たしたり、他の生徒へよい影響を与えたりするように、今後も教師間の連携をはかり指導を継続する。	
		3② 華の丘祭の成功に向け、クラス・委員会活動・部活動で協力して準備を行う。	3② 華の丘祭で、地域や保護者に学校教育活動について知らせる教育の発表の場となるよう準備を進める。	コロナ禍のため華の丘祭は非公開クラスなどで協力して準備を行ったと肯定的に回答した生徒の割合 84.8%			A

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
地域に開かれた信頼される学校づくりの推進	4-1 ふるさとに誇りをもち、協働して働く力の育成を図る。	1① 地域に貢献する取り組みを年間7回以上行う。	1① 積極的に地域と連携する活動に参加し、ふるさとへの愛着と、協働する喜びを得る。	エシカルクラブ・家庭クラブ・JRC部・防災クラブなどが、地域と連携して10回以上活動した。参加生徒のうち、次の活動を楽しみにしている生徒が9割以上いた。	A	地域に開かれた、信頼される学校となるには、保護者からの信頼と、正確でオープンな情報開示が必要だ。 情報発信の方法として、ホームページも必要だが、スマートフォンで見ることのできる「さくら連絡網」を活用してはどうか。生徒に加えて保護者も希望制で登録を促し、緊急連絡だけでなく行事予定や特別時間割・日程の変更等も	コロナ禍で、活動が制限されていたが、地域とのつながりを大切し、今後も活動を継続していく。
	4-2 地域に信頼される学校を目指し、地域の方々と関わる機会をつくる。また、広報活動を積極的に行う。	2① 中学生体験入学の来校者数100名以上、オープンスクール参加者数40名以上を目指す。	2① 「かわら版」を年間2回発行し、学校案内とともに、地域住民や近隣中学校に配付する。ホームページで中学生体験入学や11月の「華の丘教育週間」について情報発信を行う。	体験入学中止 オープンスクール来校者数 65名 内訳) 中学生45名 引率教員9名 保護者11名	A	「さくら連絡網」で発信してはどうか。学年ごとに設定できるということなので、この連絡網を活用し、保護者にとって早く、詳しい情報が学校から発信されるとよいのではないか。	部活動等のホームページの更新数を増やし、穴吹高校の魅力を発信することで体験入学やオープンスクールの参加者数の増加を目指す。
		2② 中学校訪問の回数をのべ30回以上を目指す。	2② 中学生の興味を惹けるよう、学校説明動画の充実を図り、魅力ある学校づくりが伝えられる学校説明を地域の中学校で行う。	中学校訪問回数 76回 内訳) 中学校進路説明会関連10回 部活動関連66回	A	「さくら連絡網」で発信してはどうか。学年ごとに設定できるということなので、この連絡網を活用し、保護者にとって早く、詳しい情報が学校から発信されるとよいのではないか。	引き続き積極的に広報活動を行い、中学生だけでなく地域の方々にも穴吹高校の魅力を感じてもらえるよう努める。
		2③ 保護者アンケートにおいて「学校からの通知や広報物に目を通している」と答える保護者の割合を60%以上を目指す。	2③ 広報や通知等を郵送するだけでなく、学校ホームページに掲載することで情報発信を多く行い、保護者が目を通しやすいように図る。	保護者アンケートにおける「学校からの通知や広報物に目を通している」と回答した保護者の割合 51.9%	C	「穴吹高校はこれだ!」といったインパクトのあるものが欲しい。それを積極的にマスコミ等を通じて発信していただきたい。新聞・テレビ等で穴吹高校の情報に触れる機会が多ければ多いほど、穴吹高校に関心を持ってもらえるのではないかと。	学校からの通知や広報物を、紙媒体だけでなく学校ホームページや連絡メールを活用することで、より情報に接しやすくする。
		2④ ピアノコンサートを年1回以上開催し、近隣中学校生徒や同窓会員にも公開する。	2④ ピアノコンサートを開催することで同窓会より寄贈された本校のスタインウェイピアノを周知すると共に、同窓会活動の活性化の一助とする。	11月にピアノコンサートを開催した。感染症対策のため非公開とし、本校音楽選択者を対象として行った。スタインウェイピアノの周知としては、ピアノコンサートの開催報告を学校ホームページ上に掲載することで代えた。	B	ピアノコンサートの公開方法として、学校内への招待が困難なのであれば、Webによる公開を検討してみてもどうだろうか。	年1回以上のピアノコンサート開催は達成できたが、非公開としたため、近隣中学校生徒や同窓会員への案内はできなかった。学校のホームページに記事を掲載することで、同窓会活動の広報を継続していく。
	4-3 働きやすい活力ある職場としての学校づくりを行う。	3① 時間外勤務の10%減少を目指す。	3① 出退勤管理システムを活用し、職員自らが勤務時間を把握する。また、管理職及び職員間でのサポート体制を構築し、勤務の均等化を図る。	昨年度は年度当初、臨時休業期間があったため、通常授業に戻った期間で算定した。 時間外勤務9%減少	B		次年度も出退勤システムを活用し、時間外勤務の多い教員に対して適切な指導助言や業務の割り振り等を行う。
		3② 年休等の取得率10%増加を目指す。	3② 長期休業中などは行事の精選をし、審査期間中などは研修をできるだけ入れないようにし、定時退勤や年休取得を呼びかける。また、学校閉庁日も設定する。	今年度は夏季休業中に学校閉庁日を5日間設定したり、職員に年休取得を呼びかける等、年休が取りやすい環境を整備した。 年休等取得率15%増加	A		次年度も学校閉庁日や年休取得の奨励、定時退庁の呼びかけを行う。ただ、次年度以降は前年度比ではない数値目標に見直しを図る。